委 員 会 行 政 視 察 報 告 書

大崎市議会　調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	民生常任委員会
委 員 名	後藤錦信、佐藤講英、伊勢健一、中鉢和三郎、鎌内つぎ子、加藤善市、関武徳、山田和明
日　時	令和2年1月22日（水）～令和2年1月24日（金）
視 察 先	1. 新潟県見附市　2. 富山県黒部市　3. 長野県千曲市
出 席 者 （説 明 者）	1. 見附市健康福祉課いきいき健康係　大久保副主幹兼係長 2. 黒部市市民生活部こども支援課　藤田課長、中島課長補佐 3. 千曲市次世代支援部　坂田部長、こども未来課　小野課長、千曲中央病院総務課　塚田課長

2. 視察内容

視察項目	1. 健幸ポイント制度の取り組みについて（新潟県見附市） 2. 病児・病後児保育及び一時預かりの取り組みについて（富山県黒部市） 3. 病児・病後児保育事業について（長野県千曲市）
視察内容	1. 健幸ポイント制度の取り組みについて（新潟県見附市） 見附市は、人口４万人強で、北に長い新潟県のどまんなかに位置し、東に越後山脈、西に新潟平野を望む面積 77.91 平方キロメートルの都市で、米どころ新潟県の中でも有数の田園地帯を保有しています。産業面においては、肥沃な土地による農業と繊維産業を基幹産業として発展し、幕末には見附結城が全国的に高い評価を受けるようになり、その後、染色、織物、ニットなどの総合繊維産地として知られるようになりましたが、国道や高速道路などの交通網に恵まれた立地条件からさまざまな業種の企業が市内に進出してきたため、現在では、過去の繊維産業頼みの産業構造から、多種多様な業種で支えるバランスのとれた産業構造へとさま変わりしています。中でもプラスチック製品製造、一般機械器具製造、金属製品などが躍進しています。 見附市では、第５次見附市総合計画の都市の将来像に「スマートウエルネスみつけ」の実現を掲げています。これは身体面の健康だけではなく、人々が生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送れる状態を「健幸＝ウエルネス」と呼び、まちづくりの中核に据えていこうという考えです。これまで進めてきた健康づくり事業への参加の呼びかけに加え、健康への関心が薄い市民でも自然と健康になれるようなハード整備や仕組みづくりを通じて総合的に「快適で健幸なまちづくり」を進め、日本一健康なまちづくりを目指しています。 そのための取り組みの一つである健幸ポイント事業は、日々の歩行や運動など健

康づくりをすることでポイントがたまり、そのポイントは地域商品券や社会・地域貢献（寄附）などに交換できることから、健康への関心の薄い人も含めた幅広い市民に興味を持ってもらうことができる取り組みです。

見附市はもともと介護予防や体力年齢の若返り等に力を入れ、健康運動教室などに積極的に取り組んできましたが、参加者が頭打ちとなり、その伸び悩みの解消策を検討してきました。そして30歳から70歳代の市民を対象に調査した結果、健康行動の無関心層（運動未実施）が 65%も占めていることがわかり、その人たちの健康への意識を変えることが最大の改善策であるとの結論に至りました。そこで平成 26 年度から始めた取り組みがこの健幸ポイント事業です。

参加対象者は30歳以上の市民、募集人数は最大1、500人、参加費として歩数計代5、230円がかかります（対応歩数計所持者は参加費不要）。参加者は6割が60代とのこと。参加条件は、参加規約への同意ができる、アンケート調査に協力できる、定期的に歩数計のデータ取り込みができる人です。ポイントの種類は6種類あり、歩数に応じたポイント、体重減や筋力増に応じたポイント、指定の健康づくり教室に入会した場合につくポイント、指定の健康づくり教室に参加した場合につくポイント、市や職場の健康診断を受け、結果のコピーを提出した場合につくポイント、中央公民館やパティオにいがた等で行っているラジオ体操や、新町フラワーパークから出発するナイトウオーキングに参加した場合につくポイントがあり、それぞれ種類に応じて付与されるポイント数や月間、年間の上限が定められています。歩数計や体組成データを取り込む機械は市内公共施設等 15 カ所に設置されており、歩数計を端末につないで指一本で操作できる簡単なものであるため、機械等の苦手な方でも気軽に取り組めるものとなっています。ためたポイントは1ポイント1円に換算され、2つの交換コースからどちらかを選択できます。一つは500円ごとに交換できる地域商品券コース、もう一つは小中学校やコミュニティー、NPO法人など 35 カ所の中から寄付先を選ぶ社会・地域貢献コースです。1人平均約 6000 ポイントためており、その主な使途は断トツで靴の購入だそうです。商品券発行枚数は6、719枚で、金額に換算すると約340万円に相当しています。これがどれだけ運動無関心層の取り込みや医療費抑制に効果があったかの検証については令和2年度に算出予定とのことでしたが、地域経済への波及効果は間違いなくあったとのことでした。課題としては、新規参加者の獲得、参加者の理解度の向上、冬期間の歩数増加対策などが挙げられます。

この健幸ポイントに係る予算は約26、000千円で、その財源は地方創生推進交付金を活用したSIBヘルスケア事業プロジェクトとして取り組むなどして、できる限り市の持ち出しを少なくする努力をしているとのことでした。

2. 病児・病後児保育及び一時預かりの取り組みについて（富山県黒部市）

黒部市は、富山県の東部に位置し、西は日本海に面し、北から東は入善町、朝日

町、長野県の県境に、南から西は魚津市、上市町、立山町に接するとともに、立山連峰を初めとする中部山岳国立公園が広がっています。面積は 427.96 平方キロメートルで、富山県全体の約 10%を占めています。北アルプスから富山湾まで約 3、000 メートルの標高差があり、年間降水量は、山岳部においては平均 4、000ミリメートル以上と、日本屈指の多雨多雪地帯であり、平野部でも 2、500 から 3、500 ミリメートルの年間降水量となっています。人口は約4万 1、000 人で減少傾向に、世帯数は約1万 8、000 世帯で微増傾向にあり、世帯当たり人員は核家族化の進行に伴い減少傾向にはあるものの、全国と比較すると多くなっています。市域の大半が黒部川扇状地の豊かな地勢に恵まれた農工商一体の都市であり、宇奈月温泉や秘境黒部の玄関口として、多くの観光客が訪れる市です。

病児・病後児保育室は、子どもの急な発熱、発病のとき、流行病で何日も休まなければならないときなどに家族にかわって様子を見る保育室です。

黒部市では、平成 14 年から小児科医院が開設する病院併設型保育室が稼働しており、働く保護者の大きな支えとなっていました（平成 26 年度利用者実績延べ 343 人）。病児・病後児保育は保護者からのニーズも多く、平成 24 年3月に黒部市保育・教育あり方検討会が「複数箇所での事業実施が必要」と提言。保護者をサポートする体制を強化し就労支援につなげるため、黒部市民病院と連携し、市民病院のすぐそばにある市立三島保育所敷地内に市直営の病児・病後児保育室（愛称くるみ保育室）を建設し、平成 27 年4月1日から運営を開始しました。公立保育所併設型で病児を受け入れるのは富山県内では初めての施設です。

建物は鉄骨造、鋼板葺、平家建て、70.60 平方メートルで、保育室は3室、トイレ2カ所、キッチン、洗濯室、シャワーユニット等となっており、調理室は三島保育所の調理室を兼用しています。建設事業費は市単独事業で 28、863 千円となっています。

運営体制は、職員は看護師2名、保育士2名で、利用時間は月曜から金曜の午前8時から午後6時まで（お盆、年末年始、祝日は除く）。対象は満1歳から小学3年生まで。対応可能な病気は、乳幼児が日常的にかかる疾患やインフルエンザ、おたふく風邪等の感染症、喘息等の慢性疾患、骨折等のけが等で、はしかは不可。定員は4名で先着順。予約制。利用料は1日 2、500 円、半日 1、300 円（昼食やおやつ代を含む）。指導医は黒部市民病院小児科医師。

財政措置としては、平成 30 年度の場合、歳入は国庫支出金（子ども・子育て支援交付金）と県補助金（特別保育事業費補助金）がともに 4、223 千円、病児・病後児保育運営費負担金（利用料）が 972 千円、歳出は病児保育事業費（賃金、消耗品、備品、施設管理、事務費等）7、193 千円となっています。

利用方法は、事前登録が必要（緊急時は利用申請と同時に登録も可）で、年度内有効。利用希望者は、事前に空き状況を確認した上で予約し、かかりつけ医を受診時に病児保育室を利用したい旨を伝え、診療情報提供書を記入してもらう必要があります

（記入料は黒部市民は無料）。保育室では、利用申請書と診療情報提供書、子どもの状態を見て受け入れ可否を判断することになります。

利用状況は、利用人数は平成 30 年度延べ 403 名（市内利用者 350 名）、開設日数は 241 日であり、1 日当たりの利用者数は 1.7 名となっています。

緊急時の連絡体制は、病児・病後児保育室緊急時マニュアルにのっとり、児童の症状に変化があったときは保護者に連絡し迎えを依頼、緊急の場合は救急車で市民病院に搬送することとしています。

黒部市では、近隣市町と協力して事業を実施しているが、現在は市内の病児保育施設が1施設しかなく、近隣市町の病児・病後児保育室にも黒部市からの利用がある状況のため、施設不足が課題となっており、市内複数箇所の開設の必要性について検討を行っているとのことでした。また、市内の子どもの数は減っても利用する子どもの数は減っているわけではなく、年々低年齢児の割合がふえていることから保育士不足が課題となっているとのことでした。

次に、黒部市における一時預かり保育につきましては、市内7保育所（公立2、私立5）、公立幼稚園1施設、公立こども園幼稚園部2施設で取り組んでおり、通院、技能取得、リフレッシュ等のため家庭での保育ができない場合に利用可能です。

財政措置としては、歳入が国庫支出金（子ども・子育て交付金）3、556 千円、県補助金（地域子育て支援充実事業費）3、556 千円、特別保育費負担金（公立保育所）119 千円で、歳出は私立保育所費補助金 7、620 千円となっています。

平成 30 年度の年間延べ利用者数につきましては、7つの保育所で 410 人、公立幼稚園では平常時 309 人、夏季・冬季・学年末休日預かりで 272 人、公立こども園では平常時 26 人、夏季・冬季・学年末休日預かりで 134 人という実績でした。

これら制度については、黒部市子育てガイドの配付などで周知を図っています。

3. 病児・病後児保育事業について（長野県千曲市）

千曲市は、長野県北信地域の南東部に位置し、平成 15 年9月1日に更埴市、戸倉町、上山田町の1市2町が合併、平成の大合併としては長野県で初めて誕生した都市です。人口は約6万人。面積は 119.8 平方キロメートルで、山地に囲まれ、中央部には幅約 500 メートルの大河千曲川が流れ、その両岸には肥沃な大地が開けています。市内東部には一目 10 万本と言われる「日本一のあんずの里」、南部には善光寺参りの精進落としの湯として親しまれている信州有数の戸倉上山田温泉など、特色ある観光資源をあわせ持っています。また、古くから交通の要衝の地であり宿場町として栄え、現在も更埴ジャンクションや更埴インターチェンジを有し、交通利便性の高い都市となっています。

千曲市には病児・病後児保育施設がなく、その整備が課題となっていましたが、子育て支援の機運の高まりを受け、医師会との連携により、民間の千曲中央病院に千曲

市病児・病後児保育施設「あぷりこっこ」を設置、平成 28 年3月1日に病院敷地内に開設しました。当初計画していた千曲中央病院旧棟の空き病室活用が協議過程で不可となったため、屋外設置を検討する中でトレーラーハウスを利用することに決定したとのことでした。その財源については、初年度はトレーラーハウス購入費用 7,992 千円に地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）を 100%、施設整備費及び運営委託費約 420 万円には子ども・子育て支援事業交付金を約3分の2、それぞれ充てられていました。また、2年目以降の運営委託料は約 830 万円となっており、それにも子ども・子育て支援事業交付金を活用しています。

利用状況については、平成 30 年度で、登録者数 241 人（うち市外 47 人）、利用者数 42 人（うち市外 12 人）となっています。申し込み方法等については前述の黒部市とおおむね同様ですので割愛します。

運営体制は、職員は看護師2名、保育士2名で、利用時間は月曜から金曜の午前8時半から午後5時半まで（お盆、年末年始、祝日は除く）。対象は生後 10 カ月から小学6年生まで。対応可能な病気は、感染症の場合は解熱後何日以降というように細かく定められています。定員は6名。利用料は市内在住者の場合、保育園、幼稚園または認定こども園に在籍している方は1日 500 円、半日 200 円、それ以外の方は1日 1,000 円、半日 500 円。市外在住者は1日 2,000 円、半日 1,000 円となっています。

トレーラーハウス運用上の利点としては、病院の駐車場を利用できること、駐車場に設置していることから車からの移動距離が短いこと、病院と別施設であることから他の患者に接することなく感染の心配なく入室できること、建物という扱いではないため、スペースさえあればどこにでも移動、配備できること等が挙げられます。

逆にトレーラーハウス運用上の課題点としては、建物の広さが限られていることから、3人以上の利用者があると手狭に感じるため、個々の保育に対し特に留意が必要になること、症状が異なる複数の方の利用がある場合は室内移動の際に接触の恐れがあること等が挙げられる。

その他の課題点としては、セーフティーネットなので利用者が少ないのはよいことではあるのだが、費用対効果の面からはより多くの利用が望ましいこと、利用の際にはかかりつけ医の診療情報提供が必要であるため、家族が利用をちゅうちょする要因になっていること、まずは予約を受けたが結局親が休みをとれたなどの理由でキャンセルが多いこと等が挙げられる。また、スペースが手狭なため、元気が出た子どもがストレスを感じることのないよう、散歩などを取り入れているとのことであるが、駐車場に設置しているため安全面には細心の注意が必要とのことでした。

緊急時の対応としては、千曲中央病院には小児科医がいないので救急の医師が診ており、また現在は看護師が小児科に勤務していたベテランなので安心しているとのことです。

考　察	1.　見附市においては、健康無関心層も含めた多くの市民の健康意識醸成のための工夫と努力が感じられ、「スマートウエルネスみつけ」をうたい、実践する見附市の取り組みは本市にとっても非常に参考になるものでした。。 2.　富山県では県全体で子育てを重点的政策として捉え、特に病児・病後児保育については近隣の町村にも多くあるとのことであり、共働き家庭にとっては必要な病児・病後児保育であるということを改めて感じました。また、施設の近くには黒部市民病院があり、連携を密にしている様子が伝わってきました。 　本市においても、家族構成の変化により共働き世代からの病児・病後児保育の要望は多くあり、子育てしやすい大崎市を目指し政策を展開していくことで、転入世帯もふえるのではないかと考えたところでありました。 3.　トレーラーハウスの施設ということで、手狭感はありましたが、千曲中央病院には産科医も小児科医もいない中での取り組みであり、共働きの親にとっては安心して働ける環境の一助となっているのは間違いなく、やる気の問題であると痛感してきました。

以　上